

こどもの生き抜く力、伸びていると思う？

アンイー 最初の目標とは思いもよらないものができてOKです。まずはやってみることが大事。たどり着く行程を「ジャーニー(冒険・旅)」と呼んで大切にしています。感性も大事だけれどやり抜く力や自分の感性や達成感を認める力が生まれていると思います。

西沢 勝手に子どもたちがやりだしていることはいくつもあります。化石が好きな子が化石を見つけてきて、自分で専門家にメールを出して調べ方を教えてもらったり、割り箸で橋を作るプログラムがきっかけで、建築に興味を持つ子もいます。解剖や検死をする人になりたいから医学部に行きたいという子、漁師になりたい、船に乗りたいという子もいる。知りたいことを突き詰めたいという子もいるし、技術が人に役に立つと知ってその道に行きたいと言う子もいる。理科に含まれる可能性は無限で、理科にはいろんなスイッチがある。私は入り口において手招きしているだけです。それぞれ吸い込まれた先で変化する。その子が戻ってきて、教えてくれることもこの教室をやっていて嬉しいことの一つです。

子どもにとってどんな場所でありたいと思っていますか？

西沢 私は場を提供しているだけです。実験結果と一緒に楽しみたいからネタを提供しているんです。梓にはまらない友だちができて、本当の自分が出せるって、最高ですよ。

アンイー ただいま、おかえりって親戚の家の感覚で来ている子もいます。おうちで言えないこともここでは喋れる居場所でありたい。大家族の一員になれたら嬉しいな。じっくりくる子はぜひぜひ！



2教室のインタビューを通して、「主体性」「忍耐力」「発見力」「自己肯定感」というキーワードに気づきました。何より先生の人間性に惹かれる人も多そうだと感じました。お答えいただきありがとうございました。



子どもたちの「生き抜く力」を育むことについて、教育や保育の現場ではどのように受け止められているのでしょうか。横浜女子短期大学准教授の兼子真理さんにお聞きしました。



大人になったときに必要な力として、テストで測れる知識や技能などの学力(認知能力)に加えて、我慢強くやり遂げる自制心、工夫して取り組む実行力、協働性などの「非認知能力」が注目されています。保育の現場でも「自立心」「協同性」「社会生活との関わり」などの言葉が「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」として出てきて生かされています。

自己肯定感について

3歳ごろになると忍耐力が芽生え、年長では協働性が育まれてくるなど、発達の段階に応じてできることや関心がどんどん変化していくのが幼児期です。その子にあった習い事に挑戦し、それが自信になり自己肯定感につながると思います。日本では海外に比べて自己肯定感が低いとされています。大学でも自分に自信がないという学生が多いです。自己肯定感が育まれるためには、小さい時の経験が大切です。子どもの頃から何かに取り組んだ時に、やりぬく力・忍耐力、また、自分で考えて判断して表現できること、最後までやれたと実感できること、他者に評価される経験などが、自己肯定感を育てていきます。子どもたちが話し合いみんなで決めてやってみる、受け止めてもらえる安心があるから発言ができる、成功だけを指すのではなく失敗しても大丈夫と思える環境をいかに子どもたちに用意するかです。

「自分で考える力」主体性を育もう

以前、保育や幼児教育の現場では、先生がお手本を見せてその通りできることを評価する設定保育が主流でした。今導入されている考え方が、「主体的保育」です。主体的保育が良い理由は、子ども自身がやりたいことを考えるということです。考える力が弱いと言われている子どもたちが遊びを考えたり、ルールを変更していくことで主体的に考える力を伸ばしていきます。正解にたどり着くよりも、みんなで話し合い、コミュニケーションを取ることができることが大切です。

習い事は大事なサードプレイス

今は不登校の子も増えていますね。学校以外にも居場所があることは大切。習い事はいろんな意味で、期待される部分があります。他者との共同生活を体験し、みんなで作り上げていく経験を通して、自制力や判断力を育むのです。他人の大人が一つの場所において、親以外の見本がいること。面白い大人がいる場所としての習い事というのもありだと思います。習い事には目標設定は大事ですが、それはその子の年齢や特性に合わせて定めるもので、一番は楽しむためです。保護者の方もそれを見守って欲しい。親御さんのゆとりのために、子どもを預かる場所としての習い事もあるかもしれませんが、親子のコミュニケーションのための習い事の成果でもあるんです。水泳姿を見たり、完成した作品を見て話したりと、習い事を親子で共有し、対話できることが大切だと思います。

お話を聞いた方
横浜女子短期大学准教授 兼子真理さん



第8回横浜トリエンナーレに行ってみよう!

概要

横浜トリエンナーレは国際的な現代アートの祭典です。第8回は「野草:いま、ここで生きてる」をテーマに、海外のアーティスト・ディレクターによる「野草」展と、よりアートを身近に感じられるような「アートもりもり!」という企画の2本立てで開催されます。

- 会期 2024年3月15日(金)~6月9日(日) ■休場日 毎週木曜日(4/4,5/2,6/6を除く)
- 会場 横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO
クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路
- チケット代 メイン会場鑑賞券一般2,300円/横浜市民2,100円/学生1,200円
18歳以下は無料 *その他セット券、フリーパスなどもあります



詳しくはこちら



ベイ★キッズ
読者プレゼント

詳しくは4面をみてね♪



横浜美術館 撮影:新津保建秀

小さなお子さん連れにおすすめのポイント

- 3月15日にリニューアルオープンした横浜美術館は、新設のエレベーターや授乳室、多機能トイレが設置されていて安心の環境です。会期中、横浜美術館内に常設されている「こどものアートひろば「はらっぱ」」は、スタンプを使った創作活動ができたり、ゆっくり休憩したり、子どもといっしょに思いおもいに過ごせます。周りを気にせずお話ししながら楽しめる「おしゃべり鑑賞デー」が4/14と5/5の2日間設定されています。



ママの健康応援プロジェクト



上手な検診の受け方①

【乳がん検診は、「乳がんの疑いがある人」を見つけるためのもの】

検診だけで乳がんだと診断される訳ではありません。検診では乳がんが疑われる人をふるい分け、再検査で詳しく検査します。この検査は診療行為のため、健康保険が適用されます。定期的に検診を受け陽性が出たら必ず検査を受けること。この繰り返し乳がんの早期発見・早期治療のためには重要です。

監修:ママのがん検診顧問 産婦人科専門医早乙女智子

診療と検診は全く違う行為だということ
を理解するのが最初の一步。がん検診
で再検査(診療)になった人は必ず二次
検査を!違和感など自覚症状がある人は
検診ではなく診療へ!



応援プロジェクト



広告

Art n' English Studio





子どももオトナも英語でアートを楽しまう!



公式LINE

イギリス人・日本人スタッフと一緒に、
楽しみながらアートと英語に触れ、
創造力と語学力をのばしましょう。随時、体験クラス受付中!



HPはこちら

シーズンイベントや、子供(4歳~)英語クラス、大人の英語、大人のアートクラスもあります。詳細は、HPでご確認ください。 ☎ 090-7900-5475 (担当: 霜田)